

県中学ハンド

ハンドボールの第18回八重瀬町長杯争奪・第43回県中学校秋季大会最終日は2日、八重瀬町東風平運動公園体育館で男女の決勝まで行われた。女子決勝は仲西が神森を29—22で下し、3大会ぶり11度目の優勝を飾った。男子決勝は神森が浦西を34—24で破り、8大会連続17度目の頂点に立った。

【女子】

▽準決勝
神森 26—12 松島
仲西 28—26 沖縄東
▽第3シード決定戦
沖縄東 31—18 松島
▽決勝
仲西 29(11—9)22 神森
▽優秀選手 島尻三千夏、積美星空、石川奈南(以上、仲西)、新里あやね、金城ティーナ(以上、神森)、仲座ひまり(沖縄東)、仲座由菜(松島)

【男子】

▽準決勝
神森 37—18 浦添
浦西 34—22 安慶田
▽第3シード決定戦
浦添 27—26 安慶田
▽決勝
神森 34(16—12)24 浦西
▽優秀選手 内間想太、東江尚、金城藍希(以上、神森)、大城凌一、大見愛誠(以上、浦西)、棚原武翔(浦添)、金城逸輝(安慶田)

ハイライト

女子決勝は仲西が2人の1年生の活躍などで後半に逆転し、29—22で神森を下した。

前半は神森にサイドを突破され、11—13と2点のリードを許した。主将の島尻三千夏は「前半はチーム全体がふわふわとした状態で守備をしていた。当たりが弱く、相手の攻撃に十分に対応できていなかった」と反省。ハーフタイムに「走り切ろう。勝ち切ろう」と掛けを飛ばした。

後半に入り、足を使った守備で相手パスを奪うと石川奈南、大田千紗の両1年生の速攻で7連続得点し、18—15と逆転。徐々に差を広げ、終盤は神森の猛攻をしのいだ。島尻は「声を出して守備することでチームが一つになった。相手の足が止まったところで良い攻撃ができた」と喜

んだ。

石川は、島尻に相手のマークが集中する中、相手の守備をかいくぐって得点した。小

学校でライバルだった大田とともに、チーム最多タイの7得点と活躍した。石川は「相手の心が折れるまで声を出

し、走ることができた。大田といいプレーができた」と声を弾ませた。

(平良吉弥)

仲西優勝 走って逆転

後半堅守から7連続得点



女子優勝の仲西

女子決勝 仲西—神森 後半、仲西の大田千紗が18点目のシュートを決める(東風平体育館 [古謝克公撮影])

内間と東濱が躍動

神森V8速攻光る

男子決勝は神森が4点のリードで前半を折り返すと、後半も速攻などで得点を重ね、34—24で浦西を下して、8連覇を飾った。

前半15分までは10—10と競り合っていたが、神森は内間想太、東濱永斗らの連続得点で差を広げた。

チーム最多10得点の内間は「序盤はミスの連発で相手のベースになってしまった。後半は先輩から受け継いだ守りからの

速攻で、得点につなげることができた」と汗を拭った。

チームは一つ上の先輩が果たせなかつた2年ぶりの全国制覇を目指す。主将の金城藍希は「優勝はうれしいが、前半はバスやシュートミスが多くかった。後半は守備から速攻で得点できたが、内容には納得できない」と不満げ。「全国一を目指すために、もっとミスを減らしたい」と気を引き締めた。

内間想太が14点目のシュートを

決める(男子優勝の神森)



男子決勝 神森—浦西 後半、神森の内間想太が14点目のシュートを決める(男子優勝の神森)